

新専務挨拶

岐阜勤労者医療協会

専務理事 大橋 正和



岐阜健康友の会の皆様には日頃より当法人の運営にご参加ご協力いただき、誠にありがとうございます。2022年6月1日より岐阜勤労者医療協会の専務理事に就任いたしました。よろしくお願いたします。

さて当法人における当面の最大の使命はみどり病院のリニューアル成功です。皆さまもご存じかと思いますが、2024年春に現みどり病院の北側にオープン予定で現在、計画を進めております。

1973年の華陽診療所開設以来、岐阜健康友の会の皆様とともに40年以上に渡り無差別平等・公正な医療・介護・福祉を継続し実践してまいりました。今回のリニューアルの成功が、岐阜勤労協会の継続発展につながっていくものと確信しています。

建物本体の工事が2022年9月ごろより始まる予定です。近隣の皆様や患者様、利用者様にはご迷惑をお掛けしないよう、十分に配慮して進めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

定期総会の論議を基にして

みどり病院リニューアル推進の課題を軸に

支部の活動を進めよう

岐阜健康友の会 会長 大塚 研二

2022年度の第40回定期総会が6月10日に開かれ、昨年度の活動のまとめをおこない、今年度の活動方針と予算を決めました。

【活動のまとめ】

コロナ禍のため昨年度も制約の多い一年の中で、後半には「困りごとアンケート」を職員と友の会会員の共同で12000枚配布し、その結果をもとに取り組む課題を広げ、支部の新たな活動を展開し地域の諸団体と連携する可能性が生まれています。秋の拡大強化月間は、全国共同組織交流会プレ集会をスタート集会に位置付けることから始めました。みどり病院リニューアルに向けた活動のバージョンアップとして、「塗り絵」(新しい病院の絵に色をつける)を企画し、合わせて、「新病院へ夢と希望のメッセージ」を募集しました。集まった48枚の塗り絵には様々な色とメッセージが込められ、新病院への大きな期待が表れています。前年に続けて企画した健康チャレンジにも多数の参加がありました。この月間の中で会員と「いつでも元気」読者の拡大が進みました。

全体支部運営会議は4回開き、各支部の活動を交流しました。条件の違いで活動の規模やテンポが異なるものの、工夫したスタイルが見られています。モルックやウォーキングに取り組む支部、居場所で感染対策を徹底し、子ども食堂などの子どもを対象にする企画を継続する支部、新たにスマホ教室とカレーの日を始めた支部、「健康とくらし」の配りの継続は手放さない支部などの経験が語られています。

【今年度の活動方針】

みどり病院リニューアルを成功させることを中心に据え、各支部の活動を元気に展開するのが一番の目標です。仲間ふやし(会員拡大)、

「いつでも元気」読者ふやし、勤医協基金を広げること(支部で目標を決めましょう)が必要です。再び感染拡大が始まり感染防止の徹底が必須ですが、工夫した支部活動を続け、安心して住み続けられるまちづくりの力となりましょう。平和と憲法を守る活動の強化が二層重要になっています。憲法9条の改憲を図る動きの広がりに十分目を配り、9条改憲に反対の世論をつくりあげる力になりましょう。5月から7月まで職員と共同組織で4回取り組んだ各事業所玄関前での「憲法改悪を許さない全国署名」行動には、延べ229人の参加で607筆集めることができました。今後も共同行動の発展が期待できます。

2年後の新病院竣工をめざし、私たちの活動を質的にも量的にも高めるために、役員会議と全体支部運営会議を見直し、役員会議を毎月第2水曜日に、これまで隔月に開いた全体支部運営会議を毎月第4水曜日に開くことにしました。活動と意見などの交流をスムーズに行い、若い世代を巻き込む活動を進め、入会を訴え、継続的な活動のために担い手づくりに取り組ましましょう。

健康友の会の活動を広げるために今年1月に開設した「公式ライン」の登録者は徐々に増えています。(7月末時点180名)大いに宣伝し、登録者をもっと増やし、より多くの人に私たちの活動を知らせ、賛同し、会員になってもらいましょう。

2024年 春みどり病院 新築移転
 地域にひらかれた、みんなにやさしい病院

勤医協基金にご協力ください

勤医協基金とは
 岐阜健康友の会会員さんから、無利息でお借りする資金の事です

1口 1,000円
 ※お1人様500万円まで

1978年 1983年 1989年

お問い合わせ先 医療法人岐阜勤労者医療協会 ☎(058)241-2018

健康フェスタ 開催します!!

- 日時: 11月6日(日) 9:00~11:30
- 場所: みどり病院・すこやか診療所(駐車場)
- 内容:
 - ★スタンプラリー(景品あり)
 - ★健康チェック・フレイル予防
 - ★医師による健康講座
 - ★友の会コーナー(バザー)
 - ★柿・米等の販売
 - ★みどり病院歴史写真展・紹介ツアー

参加無料



飲食の販売コーナーは残念ながらご用意ができません。ご来場の際はマスク着用をお願いします。体調がすぐれない方は参加をご遠慮下さい。

※感染拡大状況によっては内容を変更する場合があります。

*雨でも開催します

健康春秋

今から三十年ほど前にソ連崩壊のち、東欧の国ユーゴスラビアがいくつかの国に分裂しました。やや東よりの国ボスニアヘルツェゴビナはモスLEM人の国ですがセルビア人も三割ほどいて、このセルビア人を守るためというこでセルビアが侵攻し一時は七割までを支配しました。このセルビアの行為は今のロシアのウクライアでの侵略とおなじく、それよりもさらにひどい民族浄化ともいわれる虐殺がありました▼この戦争を報道したのがNHKスベシャル「民族浄化」ユーゴ情報戦の内幕▼です。ディレクターは高木徹という方で、それをもとに彼は『戦争広告代理店』を著しています。そこに示されているのは、戦争の現場というより、西側と米国の援助を引き出すための広告代理店の闘いでもありました。結果としてボスニアヘルツェゴビナの巻き返しのために有利に働きました。「情報」の役割の大きさを感ぜます▼今回の参院選ですが、終盤になつても暗い事件が勃発しました。元首相の銃殺という事件の概要はまだ完全には解明されていませんが、気になるのはその元首相の評価です。とくに「偉大な」という形容が気になります。マスコミ全体の基調はそればかりで、キチンとその業績を分析し、功罪を問うものは少ないようです▼朝日新聞の峯村氏が、元首相の記事の事前チェックを申し入れたら、読売新聞と大阪府との「包括連携協定等々、マスコミの姿勢と報道の役割が問われています▼「公正な言論のために独立を確保する。あらゆる勢力からの干渉を排するとともに、利用されないよう自戒されなければならぬ」これは新聞倫理綱領の一節です。ここに、大手の新聞社は立ち戻ってほしいし、私たちも「情報」をただしく判断できる能力が求められているようです。(K)